

庄内農家の友

Vol.978 / R5.9.1

2023

9

September



表紙写真コンクール入選 実りの庄内平野 高木 敏宏さん（鶴岡市新形町）

Contents

🌾 稲作 P2-3 「土づくり」「根づくり」

🔄 経営 P4-7 dayworkの活用推進



株式会社ファーム・フロンティア
会長
藤井弘志

「土づくり」「根づくり」

稲作も収穫時期を迎えホツと一安心する頃です。しかし、この秋に土づくりを行うことが翌年のイネの出来に大きく影響します。

稲作の課題解決のカギは「土づくり」にあり

稲作における克服すべき課題として初期生育確保と後期凋落抑制があり、どちらも土壌還元の進行、ケイ酸不足など土づくりに由来する事例が増えています。ケイ酸の効果は、葉身直立、受光態勢良好、下位葉の老化防止などにより光合成速度が増加し、デンプン蓄積が増加し、収量・品質安定につながります。稲体温度の上昇を防ぐ働きもあり高温障害を抑制します。また根の酸化力を向上させ硫化水素などの有害物質から根を守ります。

土づくりの方策として、土壌の不良性改善では排水性を改善し根域を広げるためにサブソイラ（心土破碎）やスタブルカルチを行います。総合的な土壌養分供給能力の向上のためには、有

機物施用、ケイ酸資材の施用、稲わら腐熟処理などがあり、圃場の状態などに応じてそれらの方法を組み合わせることで実行します。

課題抽出のために「医業との比較」

どの方法でどのように対応するのか的選択をするために、まず自分の稲作の課題抽出をすることです。医業と比較して考えてみましょう。病院で診察を受けた場合、身体のとこが不調なのか、悪くなった経過などを聞き取り、体温、血圧、レントゲン、CTなど必要な検査をします。ここで病気の診断の精度が高ければ、その後の治療方針は自ずと決まってくる。

稲作ではどうでしょう。イネの生育が不良の場合、どこに原因があるのかの課題抽出を精度高くできるのでしょうか。雑草、害虫、病害など、現物があるものは原因がわかりますが、収量・品質の低下、圃場のパツキなどは、その要因が明確でなく、生育の良し悪

なぜ「土づくり」が進まないか？ 「農業」は行動変容が苦手⇒行動変容を「医業」から学ぶ

【医業】自分の健康のため、家族の健康のため⇒行動変容
【農業】自分のイネのために、自分の水田のために（農家⇒医者、稲・水田⇒患者）
【医業】カルテ方式（個人対応）⇒【農業】も「圃場毎管理」へ
【医業】病気の精度の高い診断（最重要）⇒病気の特定⇒治療法の決定
【農業】課題抽出の精度が低い⇒的確な対策の実施？、コストも無駄⇒課題抽出のシステム化・人材養成

○課題抽出法⇒課題決定システム（ロジックツリー方式）	水田毎のカルテを作ると
○「一律管理」⇒「選択と集中」管理⇒意図した管理（確認行動につながる）	・各水田を意図して観察する
○フィードバック方式⇒高位平準化（コスト低減）	・変化に応じた適切な対応を考える
	・費用対効果を意識する

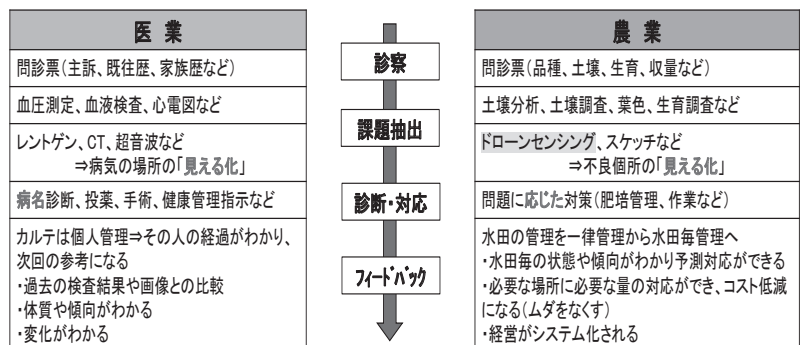


図1. 医業に学ぶ課題抽出

しにかかわらず、同じような管理になりがちです。医業と対応させて考えると、問診として品種、肥培管理の状況、土づくりの状況、収量、品質などを農家から聞き取りを行います。次に土壌pH、CECなどの土壌分析、還元調査、センシングなどを行い、不良個所や不良の原因を推定します。そのうえで対策を行えば肥

料、資材、労力の軽減になるとともに大きい効果が得られます。また、医者は患者一人一人のカルテを作成しています。カルテには診療内容、検査結果、病気の経過などが記録され、保存されています。AさんとBさんが同じ病名だとしても、症状は人によって異なり、適合する薬も違ってきます。圃場

もそれぞれに状態が異なり、年々変化しますが、毎年記録をして圃場毎の管理をすれば大きな財産となります。堆肥を施用した、稲わら腐熟資材を散布した、スラグ（ケイ酸質資材）を施用したなど、どの圃場に対策をしたのか記録があれば、その後どのように良くなったのかフィールドバックを行い、さらなる改善に向かうことができます。何よりも病気の場合には自分のため、家族のために治療しようという気持ち強いものです。稲作においても自分のイネ、自分の水田のためという意識で臨みたいものです。様々な情報やデータに基づいて効率的に土づくりを行うことで労力もコストも少なく、しかも効果が大きくなります。肥料・資材や燃料の高騰が続く中で収益を上げるには、少しコストをかけることを考え、多収を目指すことです。

「根づく」の重要性

土づくりで良い土壌を作
ることは根の生育環境の良

気象変動条件下(高温)⇒高品質・高収量確保の必須条件
⇒①ケイ酸+②還元リスク軽減+③窒素+④登熟根(直下根+うわ根)

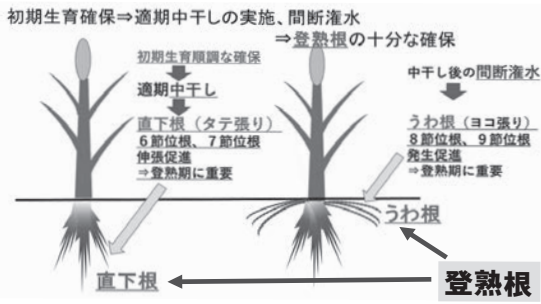


図2. 直下根とうわ根＝登熟根

化につながりますが、さらに積極的な根づくりを行うことで気象災害対応ができます。登熟が向上します。水分、養分を吸収する根づくりがしっかりとしていないと、いくら良い土があり養分があっても吸収できないこととなります。供給側だけでなく吸収側の視点から根づくりを考えましょう。

育苗期・健苗の決め手は根の充実です。根の活力を高める管理として、灌水は過湿による酸欠と地温低下を防ぐために灌水量や灌水の時間に留意し適切に行う

こと、徒長苗にならないように換気や光を十分に取入れることが大切です。活着期・移植時に断根された苗から新しい根が出てくるのが活着で、圃場におけるイネの生育のスタートになります。健苗であれば移植から活着までの期間は短くて済みます。活着が不良だと初期生育が抑制され、その後の生育も遅れることとなります。

中干し期・イネには「直下根」(タテ張りの根)と、「うわ根」(ヨコ張りの根)があります。中干し期は直下根を充実させる時期です。落水して圃場を乾かすことで根が地中の水を求めて深く伸びていきます。この直下根が伸びていると地下の深い所つまり地温の低いところの水を吸収することができますので高温気象の時でも元気なイネになります。直下根は葉齢9葉期に出る6節位根と10葉期に出る7節位根で、中干しのスタートが8・5葉期で終了が9・5葉期であるのに対応しています。間断灌水期…この頃にう

わ根と呼ばれる地表近くに横に伸びる根が発達します。うわ根は11葉期に出る8節位根と12葉期に出る9節位根で、間断灌水により地表にある水分を効率よく吸収することができます。適期中干しを行い間断灌水に移行することが重要で、直下根、うわ根とも登熟期間の大事な根となります。

水田は日本農業の生命線

土づくりで品質のよいお

米を生産することは消費者との信頼関係を増すことにもなります。これから、世界の食料事情がますます厳しさを増す中でコメの需要が増えることが予測されます。水田は食料安全保障の視点からみても日本農業の生命線です。水田フル活用により水田の機能を維持するとともに、「人づくり」として稲作の担い手を充実させていかなければならないと思います。

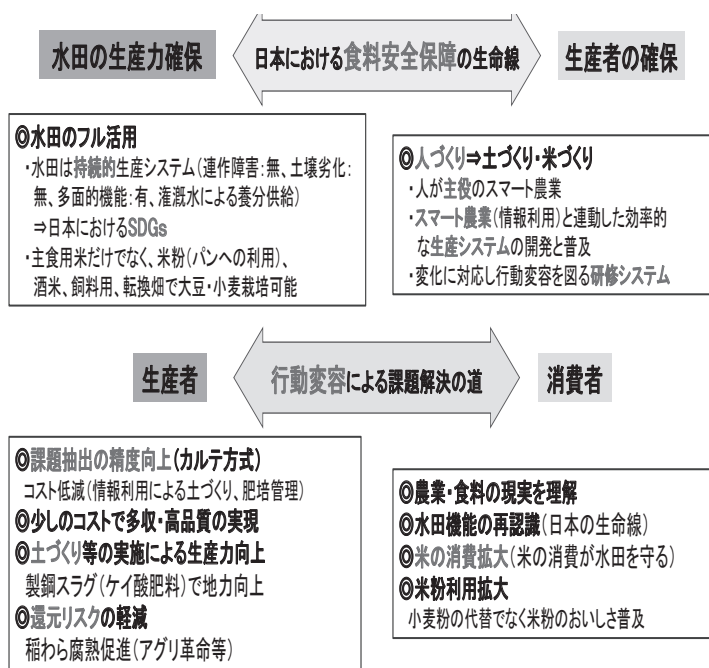


図3. 食料安全保障の視点

dayworkの活用推進



県HPぶちワーク紹介

山形県農林水産部 農業経営・所得向上推進課 井上史崇

1日農業アルバイトアプリ「デイワーク」は、農繁期等で人手が必要な農業者と、スキマ時間を利用して農作業で働きたい方をつなぐ利用料無料のスマートフォンアプリケーションです。本県におけるこれまでの活用状況と、これからの活用推進についてご紹介します。

① デイワーク導入の背景

現在、農業の担い手不足が叫ばれていますが、本県農業の実態は具体的にどうなっているのでしょうか。

農林水産省が農林業の実態を明らかにするために5年に1度実施している「2020年農林業センサス」によれば、本県の令和2年の農業経営体数は過去5年間で16%（1年間あたり約1000経営体）減少しています。一方で、1経営体あたりの平均耕地面積は前回より17%拡大しており、経営規模拡大が進展しています。また、1経営体あたりの延べ雇用者数は、常時雇いが16%、臨時雇いが43%増加していることから、各経営体における農業労働力の需要は、特に臨時雇いを中心に着実に増加していると言えます。臨時雇いの延べ雇用者数を営農部門別に見ると、果樹作の経営体を筆頭に水

稲作や野菜作の経営体においても需要があり、農繁期の短期集中的な労働力の確保は、今後の本県農業を持続していく上で必要不可欠であることが示唆されました。

臨時的な農業労働力の確保の方法としては、これまでもJA無料職業紹介所やハローワーク、ウェブ求人サイトなどのツールがありました。しかし、数時間〜1日単位の、より短期集中的な求人が可能なツールとして持ち上がったのが「1日農業アルバイトアプリ」です。

県農業経営・所得向上推進課が事務局を務め、JAグループ等の農業団体や、関係機関等から構成される「山形県農業労働力確保対策実施協議会」は、「やまがた農業ぶちワーク」として令和3年度にこのデイワークを本格的に導入しました。農業者等の求人する側への



アプリ紹介と、子育てママや学生、会社員等の働く側への周知を双方で進め、初年度(令和3年度)の仕事の成立は延べ3181人、成立率は89%と上々の滑り出しを切ることができました。また、次の年度(令和4年度)は仕事の成立が延べ6685人と、その数字は大きく向上しました。

② デイワーク利活用の状況について

県内の農業者の登録者数は、地域別にみると村山が61%、庄内が23%、置賜が14%、最上が2%となっており、求人の内訳をみると、作物別では果樹関係が70%と最も多く、野菜、花きと続いています。なお、今年度は稲作の求人伸びています。また、作業内容別では、収穫作業が34%と全体の3分の1を占め、次いで出荷調整が多数となっています。

働き手の属性ですが、会社員、パート・アルバイト、学生の順に多く、会社員は全体の3分の1を占めています。

ます。年代別では30歳未満が最も多く、40歳未満では全体の54%を占め、若い働き手が多い傾向にあります。なお、男女比はほぼ半々です。

③ デイワークの広がりとともに明らかになった3つの課題

令和4年度の総求人数に対する総応募数は139%であり、一部の期間・地域を除いて仕事不足している傾向にあります。

なすぎる」という声もありました。農業者の登録者が増やすことも必要ですが、実際に求人を出す農業者を増やし、求人側のアプリ利用率を向上させることが必要であることが分かりました。

してきているものの、慢性的な求人数不足の状況は変わらず、農業者への普及活動は今後も必要であり、最も力を入れていくべき部分と考えております。

これまで利用推進を進めてきた中で、大きく3つの課題が見えてきました。

1つ目の課題は、求人する農業者の利用が芳しくなかったことです。令和3年度末の県内農業者のアプリ登録数は193戸でしたが、実際に求人を行った農業者は65戸(登録者全体の34%)にとどまりました。これはアプリに登録だけではしたものの操作方法が分からないといった理由が挙げられます。このような中、働き手側から「アプリに登録して仕事を探したが、求人が少



ログインフォーム

ログインボタン

マイページ

2つ目の課題は、デイワーク求人数の地域的な偏りです。特に村山地域における農業者の利用割合が高い一方で、最上地域の令和3年度の求人数は0件でした。これは村山地域に果樹生産者が多くことが影響していると考えられますが、地域内にアプリ登録をしている働き手はいるのにその地域に求人がないのは、農業者の視点から見れば、地域の潜在的な農業の労働力を活かす切れていないことを意味しており、地域差はあれども県内全地域での普及が必要と見えます。なお、庄内地域においては、令和4年度の求人数の割合は全県の12%で、水稲や野菜の求人では全県の半数程度を占めています。

次のとおりです。

〈農業者向けアンケートの主な質問と回答〉

Q. アプリの満足度としては9割が「満足」又は「やや満足」と回答し、96%が今後「デイワークを利用したい」との高い評価を受けました。

Q. デイワークを利用して良かった点は？

A. 「サービス利用料が無料」「1時間や1日単位で募集できる」「働き手とチャット形式でやり取りができる」「急な募集でも人手が集まる」など

Q. 苦労した点は？

A. 「給料支払いの準備」「仕事の指導」「働き手とのコミュニケーション」「チャットでのやり取り」など

Q. 働き手受入れの際の工夫・配慮点は？

A. 「仕事内容の指導」「安全への配慮」「チャットでの連絡などによる作業当日までのフォロー」「トイレといった職場環境」など

〈働き手向けアンケートの主な質問と回答〉

Q. 空いた時間を有効活用したいという働き手のニーズがあり、また農業への興味や農家を応援したいという働き手も多いことが分かりました。不満がある点として、最も多かったのは求人少なさでした。

Q. 農業アルバイトをしようと思った理由は？

A. 「空いた時間の有効活用」が最多、次いで「収入確保」「農業への興味」「農業現場のことを知りたい」「農家を応援したい」など

Q. 農業アルバイトについて希望する頻度は？

A. 「週1〜2回」が最多、次いで「月1〜3回」「週3〜4回」「週5〜6回」など

Q. デイワークを利用して良かった点は？

A. 「数時間〜1日単位で働ける」「勤務地・勤務日を選べる」「書類審査や面接がなく手軽」「利用料が無料」など

Q. デイワークを利用して不満だった点は？

「求人少なさ」

〔4〕農業者、働き手へのアンケート調査から見てきたこと

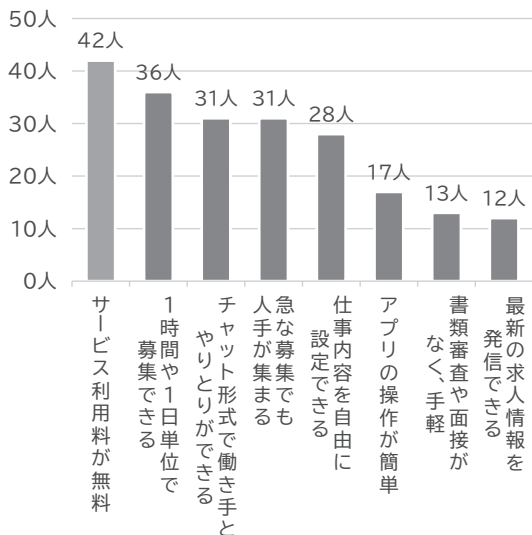
県内でデイワークを導入して2年目にあたる昨年12月、農業者と働き手双方に向けて利用状況に関するアンケート調査を実施しました。主な質問と回答内容は

らんぼの収穫等作業の多数の求人により、令和4年6月の成立率は68%にとどまりました。これは令和4年度の6月以外の成立率の平均である83%を大きく下回る数値です。こうした状況を踏まえ、今年度は6月に向けて積極的なチラシ配布やSNS等への掲載により、働き手側への周知を厚く行った結果、成立率は84%と大幅に改善しています。今後、庄内地域をはじめ、村山地域以外でも求人が集中することで、働き手が一時的に不足することも考えられますので、農業者への周知と働き手への周知を両輪で行っていくことが必要です。

農業者向けアンケート結果

dayworkを活用してよかった点は？(複数回答)

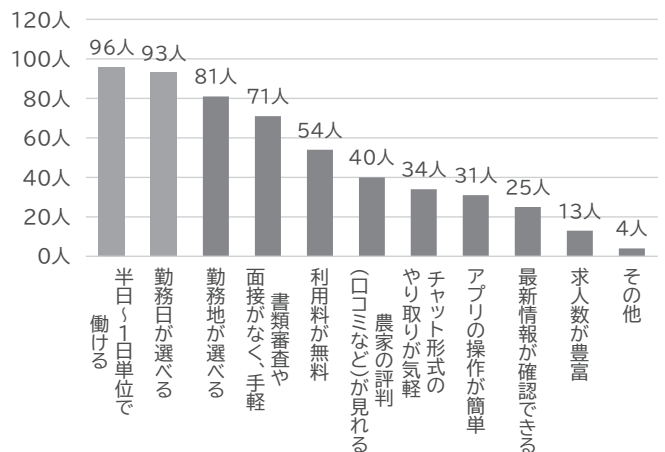
・「サービス利用料が無料」が最も多く、35%が回答。
・1時間や1日単位で募集できること、チャット形式でやりとりができることも好評。



働き手向けアンケート結果

dayworkを活用して良かった点は？(複数回答)

・「半日〜1日単位で働ける」や「勤務日を選べる」が最も多く回答。
・「勤務地を選べる」や「書類審査や面接がなく、手軽」なことも高いことも高評価



A.「求人募集が少ない」が最多。次いで「時給が安い」、「農家からの連絡が遅い」など

⑤今後の活用促進に向けて

少子高齢化が進み生産年齢人口(15〜64歳)が減少している日本社会においては、農業に限らず、どの産業分野においても深刻な労働力不足に陥っていると、言っても過言ではないと思います。

一方で、働き方改革により会社員の副業等による多様な働き方が認められるようになりつつあります。ただ、本業も忙しく、副業に費やせる時間が限られる中で、アンケート結果にもあるように、例えば週1〜2回など、毎日ではない少ない頻度の求人のニーズが増えています。まさに、数時間〜1日単位で農業アルバイトに応募できるデイワークは、これら働き手のニーズを満たせる最適なものなのではないでしょうか。また、初心者であっても取り組みやすく、かつ、

短時間の作業に仕事を切り分けることができるのは、農業分野の強みであり、労働力を取り込む力がある分野なのではないかと思えます。

求人を行う農業者側としても、「良い求人」を行わなければ、募集を行っても人は来ません。「良い求人」となるためには、例えば農場の雰囲気分かり、仕事内容が明確であることが必要となります。また、時給はさることながら、応募者とのこまめなやり取りや、作業時の指導の分かりやすさ、円滑なコミュニケーション、トイレや休憩場所などの労働環境の整備など、働き手への気配りも必要です。事前に作業マニュアルを準備して、マッチングした働き手に送る農家の事例もあるようです。

前述のとおり、今後デイワークを利用する農業者の掘り起こしに最も注力していきたいと考えております。JAと行政機関が一丸となつて、チラシやSNS、メディアによる周知を行った

り研修会を開催したりしてあります。特に今年度は、山形県農業協同組合中央会と希望する各JAがアプリ操作説明会を開催し、説明会の中で実際にデイワークアプリを操作してもらう活動を行っています。また、アプリの操作で分からないことは、チャット機能を用いて、アプリ運営会社に随時質問できる体制を取っています。通常のウェブ求人サイト等は利用料がかかってしまうものが多いですが、デイワークはアプリ運営会社の農業分野に貢献したいという強い思いから、今年度も完全無料です。まずは、以下のQRコードから気軽にアプリに登録していただき、実際に求人募集を行っていただければ幸いです。

今年度は県内のマッチング数延べ10000人を目指しています。デイワークによる雇用創出が、皆様の人手不足解消の一助になると確信していますので、ぜひ利用してみてください。

Android



iPhone/iPad



第57回 庄内フラワーショー

- 開催日 令和5年9月30日(土)～10月1日(日)
- 会場 酒田駅前交流拠点施設ミライニ1階光の湊ロビー
(酒田市幸町1丁目10-1)

- 主催 庄内花き生産組織連絡協議会

- 内容 (予定) 令和5年9月30日(土)
11:00～16:30 一般公開、人気投票



※人気投票ご協力の方へ抽選で花ギフトプレゼントします。

- 令和5年10月1日(日)
10:00～17:00 花の販売会

※売り切れ次第終了となります。



- その他 入場料無料

※花のご購入は現金のみとなります。

※お越しの際は隣接の立体駐車場をご利用ください。(2時間無料)

庄内の旬の食を 贈ろう！

県外に住むご家族・ご友人に

第2弾 庄内産日本なし

応募期間 9/1 ▶ 9/30

和なしジュース

1,000ml 2本

30名様にプレゼント

庄内総合支庁では県外に住むご家族・ご友人に庄内の旬の食を贈るキャンペーンを実施しています。キャンペーン期間中に、県外のご家族・ご友人に旬の食(9月:庄内産日本なし)を「贈った方」と、「贈られた方のうち情報発信をした方」の中から抽選で30名に景品をプレゼントします。

食の都庄内ホームページとフェイスブックでお知らせしています。

応募対象

応募方法

県内の方

県外にお住まいのご家族・ご友人に庄内産日本なしを贈った方

「食の都庄内」イベントページの申込フォームからお申込みください。(9/1公開予定)

県外の方

「#庄内の旬の食を贈ろう」をつけて、贈られた庄内産日本なしの写真をInstagramに投稿された方

当選された方にはダイレクトメッセージをお送りしますので、「食の都庄内」Instagramのフォローをお願いします。

お問合せ

「庄内まるごと届け隊」推進協議会
(事務局:山形県庄内総合支庁農業振興課内)

☎ 0235-66-5519

✉ yshonainoshin@pref.yamagata.jp